

第9回関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会

テーマ

「地域と学校をつなぐコミュニティ活動」

～コミュニティ協議会が果たす役割と実践事例～

令和5年10月28日（土）

会 場；水戸市民会館



©神栖市

発表者

神栖四中学区地域コミュニティ協議会

会 長 樋口 義則

1. 神栖四中学区地域コミュニティ協議会の紹介

◇地域の紹介

神栖市の北西部に位置し、鹿島開発により造成、整備された市街地に商業、住宅地が広がる。
地域内には高速バス乗り場となるセントラルホテルや東国三社の一つである息栖神社、かみす防災アリーナなどがあり、神栖市の玄関口、中心市街地である。

◇活動地域、

「神栖第四中学校」を学校区とする、8地区を活動地域とする。

地域内には神栖第四中学校、大野原小学校、大野原西小学校の3つの学校がある。

◇コミュニティ協議会の構成員数

8地区の各種団体と公募会員で構成 登録会員数；65人

◇設立年 平成25年9月20日

◇運営費 市補助金、賛助金

参考データ（R4年4月）

●神栖四中学区の地域の人口・世帯数(令和4年)

・8地区世帯数；約7,000世帯、 人口；約15,000人

●児童生徒数；1,399人

神栖四中；425人、大野原小；550人、大野原西小；424人

●子ども会；5地区に7つの子ども会(3地区は子ども会解散)

●神栖市世帯数；人口；94,200人、41,600世帯、(地区加入率；38.8%)



2. 神栖四中学区地域コミュニティ協議会について

①コミュニティ協議会設立の目的

- ◇現代社会は生活様式や生活意識の多様化に伴って、**隣近所のつながりや地域の連帯感が希薄化**したことで、環境、防犯、防災、交通災害、子育てなど**日常の様々な問題が発生**してきた。こうした問題に対処していくには**住民相互が理解し合い、自らの問題として自主的に取り組み解決**することが重要、とのことから、**地域コミュニティ協議会の必要性が認識された**。
特に、東日本大震災を契機に、より**コミュニティの重要性が一層深く認識された**。
- ◇平成25年、モデル地区小学校区として「**大野原小学校地域コミュニティ協議会**」を設立した。

②協議会の役割(活動)

- ◇**地域の身近な問題や課題**について、解決策を検討し、**解決**するために活動を行う。
- ◇地域の人たちが気軽に参加できる、様々なイベントなどを実施し、**地域のつながりを深め、助け合いのできるコミュニティの醸成**を図る。
- ◇行政区をはじめ、既存団体とが情報交換、共有し合い、連携して、**住みよい地域コミュニティの構築を目指す**。
- ◇**市民協働のまちづくり**として、**住民の立場から行政との意見交換や提案など**、コミュニティ協議会として積極的に**発信**する。
- ◇**地域と学校が連携して「郷土を愛する、豊かな心をもつ子どもたちの育成」**に取り組む。

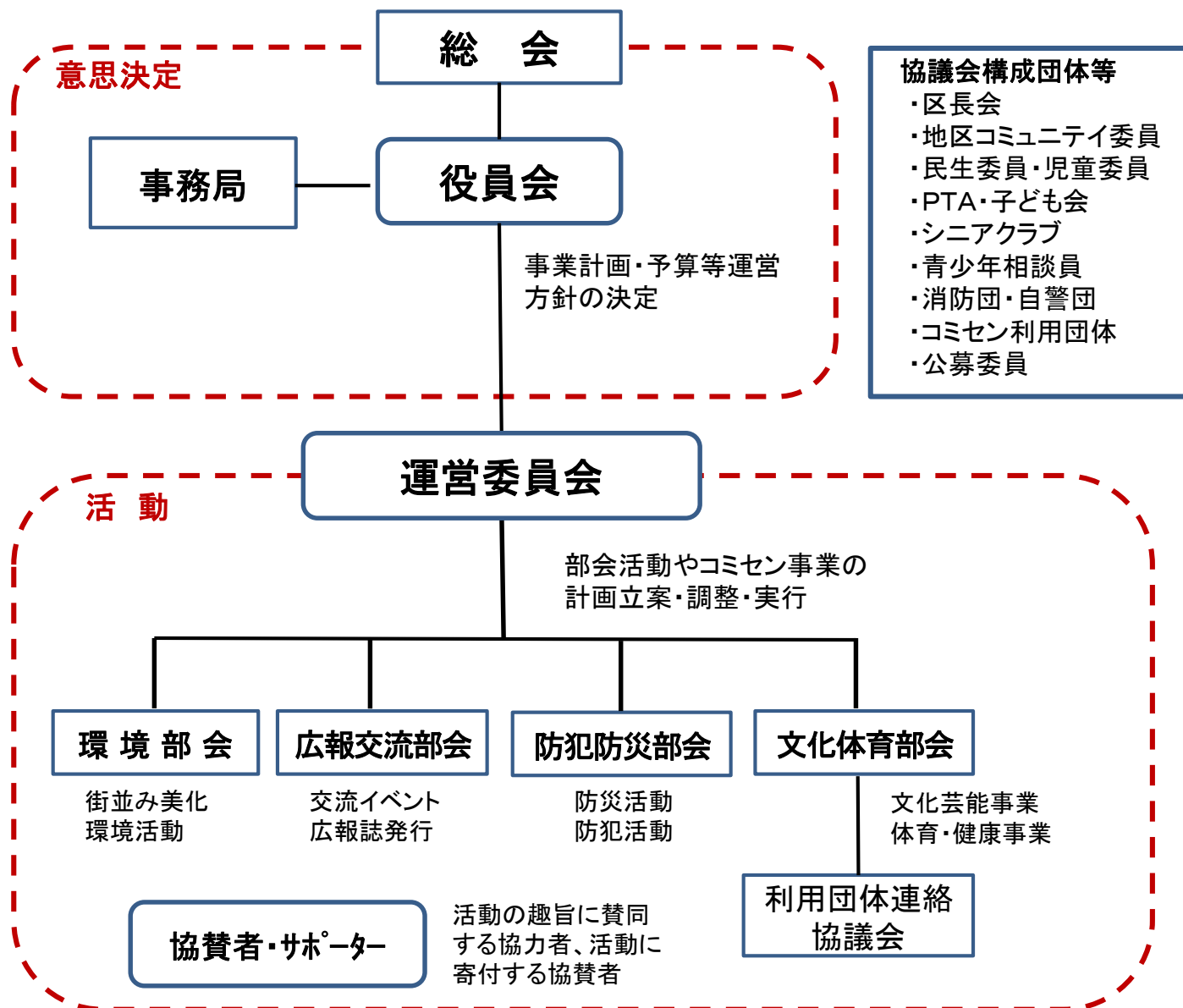


3. 神栖四中学区地域コミュニティ協議会の沿革

平成20年 8月	神栖市まちづくり推進協議会設置される（2年間） ⇒市民によるまちづくりの実践を行う団体の設置を目的とする
平成22年 5月	「地域コミュニティ協議会」についての報告書が提出される ⇒地域の課題を地域住民が考え解決していく組織
平成23年 1月 3月11日	神栖市地域コミュニティ協議会設置検討委員会が設置される ※ 東日本大震災が発生 ⇒改めて地域コミュニティの必要性が認識される
平成24年 2月 12月19日	「地域コミュニティ協議会について」の提言書が提出される ⇒神栖市の全小学校区（15）に地域コミュニティ協議会の設置を提言 モデル地区の第1候補に「大野原小学校区」がなる 大野原小学校区の地域への団体へ個別説明会を実施
平成25年 2月～ 8月 7日 8月29日 9月12日	大野原小学校区内の各団体代表者へ必要性について全体説明を行う 立ち上げについて全体説明会を行い承認を得る ワークショップを開催し活動内容、役員人事等を協議決定 臨時総会を開催 規約、役員選出等を決定
平成25年9月20日	大野原小学校区地域コミュニティ協議会が発足する
平成30年 3月 5月～ 12月1日	大野原コミセンとコミュニティ協議会の統合化案が提案される 統合準備委員会を設置し統合化について協議 コミ協、コミセン役員会及び臨時総会にて統合化が承認される
平成31年4月20日	コミセン統合化と活動地域を大野原西小学校区へも拡大「神栖四中学区地域コミュニティ協議会」としてスタートする

4. 神栖四中学区地域コミュニティ協議会組織図

役員会
会 長 (1)
副会長 (2)
会 計 (1)
監 事 (2)
部会長 (4)
運営委員会構成
正副部会長(8名)
理 事(12名)
・区長 (7)
・民生児童委員(1)
・子ども会(1)
・PTA(1)
・シニア(1)
・青少年相談員(1)
理事構成メンバーは 輪番制又は推薦に より選出。
顧 問
小・中学校長



- 協議会構成団体等
- ・区長会
 - ・地区コミュニティ委員
 - ・民生委員・児童委員
 - ・PTA・子ども会
 - ・シニアクラブ
 - ・青少年相談員
 - ・消防団・自警団
 - ・コミセン利用団体
 - ・公募委員

5. 神栖四中学区地域コミュニティ協議会の理念

<基本理念>

みんなで力を合わせて 豊かな文化と
こころを育み 住みよい誇れるまちづくり

基本理念の考え方

これまで各地域の住民・組織・団体が自主的に取り組んできた活動を基盤に、地域の枠を越えてすべての人々が連繋・強調し合い、市と協働して活動を具体的に推進することにより、コミュニティとしての地域活動の充実と地域力を向上させることを神栖四中学区地域コミュニティ協議会の基本とする。

<四つの目標>

●笑顔でしんせつ、心豊かなまちづくりを目指します。

※人にやさしく、笑顔であいさつのできる明るく楽しい地域づくり

●一番キレイな地域を目指します。

※ごみのない、きれいな街並み、美化環境・地域づくり

●声をかけあって、安全・安心なまちづくりを目指します。

※みんながルールを守り、思いやりをもって見守る地域づくり

●みんながつながり、助け合えるまちづくりを目指します。

※みんなで支え合い、協力し合って暮らせる、安心・安全な地域づくり

6. 神栖四中学区地域コミュニティ協議会 部会の構成と活動

部会の構成団体と活動内容

部 会 名	部会の主構成団体	部会の活動内容
環 境 部 会	シニアクラブ 地区コミュニティ委員 公募委員など	地域の環境美化活動、学校の清掃活動やフラワーロードの花植えなど、美しいまちづくり、環境美化に関わる活動全般について取り組みます。
防犯防災 部 会	地区区長 民生児童委員 青少年相談員 公募委員 消防団 地区コミュニティ委員	毎月1回、朝のあいさつ、見守り活動を実施。通学路の安全点検や交通安全マナーアップ（体験）を適宜実施します。年1回防災訓練、防災資機材訓練など地域防災力向上に関する活動を担当します。
広報交流 部 会	各校PTA 子ども会 学校関係（担当教職員） 公募委員など	春夏のお楽しみ会などの地域交流イベントの企画立案実行を担当するほか、協議会広報誌「コミ協だより」を2回／年発行し、コミュニティ協議会の活動内容を地域や学校等に情報発信をします。
文化体育 部 会	コミセン利用団体 公募委員 スポーツ推進委員など	生涯学習ふれあいまつり芸能発表会やコミセン利用団体によるスポーツ大会、シニア世代交流輪投げ大会など地域及びコミュニティセンターの利用団体に関する活動を担当します。
役 員 会	（役員・部会）	外部から講師を招いて、コミュニティ醸成及び防災に関する講演会や勉強会等を開催。 交通安全標語コンクールの表彰（小中学校）や夏休みラジオ体操を開催。コミ協活動の活性化として適宜サロンの開催も行います。

※ 公募委員；協議会に賛同する会員

7. 神栖四中学区地域コミュニティ協議会 年間活動計画

主体	活 動 項 目	活 動 内 容	活動；実施時期・頻度・場所
役 員 会	役員会議・運営委員会議	・ 活動計画の検討や実践活動などコミ協運営について協議	役員会議 3 回・運営委員会議 3 回／年
	講演会 ・ 勉強会	・ 防災やコミュニティに関する講演会（地域力・防災力の向上など）	1 回／年 ・ 3 月、大野原コミセン
	夏休みラジオ体操	・ ラジオ体操と新学期への生活リズムの整えと親子の交流	8 月 2 5 日～3 1 日 7 時・小学校
	交通安全標語コンクール	・ 交通安全標語の募集と優秀作品の表彰、横断幕の制作、啓発活動	1 回／年、11～12 月、各小中学校
	コミ協サロン	・ 地域・コミ協の課題解決と新たな活動のアイデア発掘	適宜開催（過去 3 回実施）
環 境 部 会	部会会議	・ 部会活動についての協議	会議；6～7 回／年、大野原コミセン
	学校清掃 ・ 街並み美化	・ 大野原小、大野原西小、神栖第四中学校の清掃、街並み美化活動	1 校／年、3 校輪番制で清掃活動
	フラワーロード花植え	・ 中央公園前フラワーロードの花植え奉仕	2 回／年（春 ・ 秋）9 時～中央公園前
防 犯 防 災 部 会	部会会議	・ 部会活動についての協議	会議；6～7 回／年、大野原コミセン
	あいさつ・見守り活動	・ 大野原小、大野原西小で あいさつ運動 ・ 登下校見守り活動	1 回／月（第 3 月曜日）7 時/14 時 30 分
	通学路安全点検 児童交通安全マ-アップ運動	・ 大野原小、大野原西小通学路安全点検、交通マナーアップ体験	不定期（H 2 5 年から 3 回実施）
	防災訓練・資機材取扱訓練	・ 防災資機材点検と防災訓練（救急訓練・消火訓練・A E D 訓練・煙体験など）	訓練 1 回／年、1 1 月上旬
広 報 交 流 部 会	部会会議	・ 部会活動についての協議	会議；6～7 回／年、大野原コミセン
	地域交流・世代間交流 イベント（お楽しみ会）	・ 夏のお楽しみ会（児童・生徒と地域・学校・子ども会による地域交流）	夏（8 月下旬）、大野原コミセン
		・ 春のお楽しみ会（昔遊びやゲームを通して児童・生徒と世代間交流）	冬・春（1 月下旬）大野原コミセン
	広報誌発行	・ 情報誌（コミ協だより）の発行（A 3 判両面刷）、活動ニュース発行	発行；2 回／年（9 月/3 月）2, 300 部
文 化 体 育 部 会	部会会議・利用団体者会議	・ 部会活動についての協議、利用団体との調整会議	会議；2～3 回／年、大野原コミセン
	スポーツ大会	・ コミュニティセンター利用者団体間の交流スポーツ大会	1 回／年 6, 7 月大野原コミセン
	輪投げ大会	・ シニア世代地域交流輪投げ大会	1 回／年・1 0 月 大野原コミセン
	芸能発表会	・ 生涯学習ふれあいまつり（コミセン利用団体の成果発表会）	1 回／年 2 月 大野原コミセン
	環境美化活動	・ コミュニティセンター利用団体による施設の美化清掃	2 回／年・9 月/3 月コミセン施設

地域コミュニティ協議会

活動事例の紹介

◇ 活動紹介 【役員会】 夏休みラジオ体操



ラジオ体操は、2学期への生活リズムの整えと、親子、地域交流を目的として、夏休み後半の1週間ラジオ体操を実施します。

● 2014年大野原小学校で始める。

毎年参加者は増加傾向にある。親子での参加が増加している。

当初は学校は場所の提供のみであったが、近年では先生の参加もみられるようになった。児童の夏休みの思い出づくりとしては効果的な活動となっている。

● 参加者実績；60人～80人／日

● 2020、2021年はコロナ禍で中止

● 2022年大野原西小学校でもラジオ体操を始める



◇ 活動紹介 【役員会】

小学校生活科授業協力

コミ協では小学校が行う、学校生活を支えている地域の人々と児童生徒の関りを見つける生活科学習授業にコミ協が協力しています。

通学路の探検や学校探検を通して楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全に登下校したりできるようにする。また昔から伝わる遊びを見せてもらったり、教えてもらったり、楽しく遊んで交流する。

社会教育授業やあいさつ運動、見守り活動を通して、児童がコミ協会員を身近に感じたり親しむようになったりすることで児童の発達育成に効果があると感じる。

(コロナ禍で中断していたが、令和4年度から再開)



まちなか探検



昔遊び交流会



◇ 活動紹介 【役員会】

講演会 ・ サロン

講演会 自助・共助、助け合いのできるまちづくり、地域防災力の向上を目的としたテーマで、毎年、外部講師に招いて講演会を毎年開催しています。

サロン サロン型式を取り入れて、地域の課題やニーズを発掘したり、コミュニケーションを高めるために適宜開催します。出された意見はコミ協の活動に活かします。

サロン



サロンには児童生徒も参加



講演会



佐藤敏郎講師



横田能洋講師



鈴木里枝子講師

◇ 活動紹介(防犯防災部会)

防災訓練・資機材取り扱い訓練

防犯防災部会では

- 毎年防災訓練を実施します。訓練では、避難訓練、消火器訓練、煙体験、A E D訓練など消防署の協力を得て行っています。炊き出し訓練では避難食などの試食をします。
- 防災資機材の取り扱い訓練では、非常照明やテントやトイレの組み立てなどの体験します。
- また、消防署や市防災安全課と協力して、市が行う総合防災訓練に協力したり、意見交換会なども行っています。



避難訓練の様子 人員点呼・確認



消防士の指導で心臓マッサージやA E D、消火活動の体験をします

◇ 活動紹介 【役員会・防犯防災部会】

防災勉強会(避難所の運営、防災資機材・備蓄資材の取り扱いなどを学ぶ)

地域防災力の向上 自分たちの地域にある、防災の備蓄材や資機材の保管倉庫などを見学したり地域防災力の向上を目的として、取り扱い方法を学んでいます。また避難所の開設や運営についてをワークショップを通して学ぶなど、いざという時に地域で助け合いができるように勉強会も開催しています。勉強会には市職員、教職員も参加します。。

防災倉庫の見学・資機材の取り扱い訓練



日本女子大学平田教授

避難所の運営（神栖避難所大学）



ワークショップによる避難所運営を討議

◇ 活動紹介 【防犯防災部会】

朝のあいさつ、児童の交通安全・見守り活動

- **コミ協**では 毎月1回、第3月曜日を「朝のあいさつ運動（7時20分～）」と「下校時の見守り活動（14時30分）」の日として定め、大野原小学校と大野原西小学校で行います。また毎日の登下校時には、コミ協の会員や地域の協力者の方々も見守りを行っています。参加者・協力者はそれぞれの学校区で割り振っています。協力者は年々増加傾向にあります。R5年4月から神栖第四中学校においても「あいさつ運動」を開始しました。



◇ 活動紹介(防犯防災部会)

児童通学路の安全点検



現場を確認後は全員で検討会

通学路安全点検は、児童が日常通学する通学路の危険箇所を子ども目線でチェックした箇所を大人目線でも現場の状況を確認し検討会を行い、対策や措置方法などを協議します。

- ・点検結果を纏めて行政や関係部署に要望を行う。
- ・交通安全マップを作成し、学校で危険箇所の周知を図る。
- ・改善を要する項目の中で、コミ協で実施可能なものについては、直接地域住民に改善を依頼するなどの活動を行います。

●H26年、H28年大野原小学校を実施。

●R2年は「学校安全総合支援事業」に参加し大野原西小学校区の通学路安全点検を実施しました。



◇ 活動紹介 【防犯防災部会・役員会】

交通安全標語コンクール・交通安全マナーアップ教室

コミ協では、児童の交通安全として交通マナーアップ教室や学校と連携して交通安全標語コンクールなどを開催し、児童の事故防止に努めています。

- 交通安全マナーアップ教室は交通安全協会、茨城県トラック協会や運送事業者の協力を得て行っています。
- 各学校で交通安全標語のコンクールを行い、最優秀作品は横断幕を制作し、学校内または周辺に掲示して、交通事故防止の啓発を行います。



交通安全標語コンクール表彰・横断幕



交通安全マナーアップ教室

◇ 活動紹介(環境部会)

環境美化活動(学校清掃・街並み美化・フラワーロード花植え)

環境部会では、学校清掃、街並み美化活動、フラワーロードの花植えなど美化運動を実施しています。

「一番キレイな地域を目指そう」を目標に、自宅前や公園清掃、フラワーロードの花植え、学校清掃活動をコミ協、地域住民と一緒に取り組んでいます。

地域のみんなで協力し合う街並み美化清掃は、コミュニティの醸成に重要な活動行事です。近年は参加者が減少傾向にありますが、花植えには教職員も積極的に参加するなど増加しています。更なる活性化が今後の課題です。



学校清掃



フラワーロード花植え



街並み美化活動

◇ 活動紹介 【広報交流部会】

地域交流イベント(春・夏のお楽しみ会・昔遊び体験など)

交流イベントは、夏休みや冬休みには開催する「お楽しみ会や昔遊び体験」は、コミュニティ協議会の中で一番大きな交流イベントです。イベントの実行に当たっては、コミ協とPTAや子ども会、教職員、ボランティアなどが協力して行います。

イベントには、250～350名ほどが参加します。(2021、2022年はコロナで中止)



35mの流しソーメン



スイカ割りは長蛇の列



人形作りを教えてもらっています



スイカとってもオイシーです！



めんこ遊び



餅つき大会 ペったんこ！

◇ 活動紹介 【広報交流部会】

地域交流イベント(春・夏のお楽しみ会・昔遊び体験など)

お楽しみ会 夏はスイカ割り、かき氷、流しソーメンなど大人も子どもたちも大好きです。冬は餅つき大会、昔遊びやゲームなどコミ協と子ども会がいろいろな遊びやゲームなど、みんなが手作りして工夫して楽しめます。

お楽しみ会などには、中学生もコミ協活動にボランティアとして参加しています。



◆ 活動紹介 【広報交流部会】

広報誌「コミ協だより」の発行

コミ協だよりの発行 コミュニティ協議会の広報誌として2回／年発行し情報を発信しています。平成25年1月に第1号を発行以来、これまでに24号を発行してきました。発行当初はA4判両面刷りでしたが、令和元年4月から四中学区地域コミュニティ協議会の発足により、第16号からA3判両面刷りとし紙面の拡充を図りました。

発行部数 2300枚（地域回覧、学校生徒へ配布、コミセンなど公共施設に配置）



◇ 活動紹介 【文化体育部会】

生涯学習芸能発表会、輪投げ大会、スポーツ大会

文化体育部会では、コミュニティセンターを生涯学習の場として、利用登録団体や地域の方々に開放しています。芸能発表会やシニア輪投げ大会、スポーツ大会などを行い地域交流が図られるようコミュニティ協議会が運営を行います。

芸能発表会



スポーツ大会



シニア交流輪投げ大会



バレーボール大会



- ◎地域コミュニティ協議会のモデル地域として活動を始めて10年。発足当初から協議会理念のもとに多岐に亘る幅広い活動を地域の方々と協力し前向きに取り組んできた。
- ◎地域活動の成果（評価）を数値的に表すことは困難であるが、**「毎年の活動を着実にやり遂げてきた努力と、その結果の積み重ねが10年に亘って現在も活動が継続していることこそが、協議会最大の成果である」**といえる。（下記に主な定性的な成果を列挙）

- 協議会の設立により、行政区や学校、PTAや子ども会組織に、コミュニティ協議会担当委員（役員）が配置されたことで、各地域に協議会への協力、支援体制の仕組みが確立された。これにより地域の枠を越えて、共通の認識を持つ人々とのつながりが生まれた。
- 協議会の考えに賛同する人たちにより、様々な問題や課題を話し合える機会や場所ができたことで、地域、団体の枠を越えて、課題解決に協力して取り組む姿勢と力がついた。
- 協議会とコミュニティセンター事業の運営を一体化したことで、より地域に開かれたコミュニティセンターの運営を目指した活動ができるようになった。
- 運営の一体化に併せ、協議会活動を小学校区から中学校区に広めたことにより、新たな会員の加入により人材や組織力の強化につながった。
- 防災訓練や講演会、交流イベントには、多くの地域住民が参加。特にお楽しみ会や昔遊び体験などの交流イベントには、多くの子どもや大人が参加するなど、コミュニティの賑わいや繋がりが生まれている。
- 朝のあいさつ運動や登下校見守り活動などには、協議会員だけでなく、地域の協力者も増えており、学校安全（交通事故防止・防犯活動）に大きく寄与している。
- 各学校は「地域コミュニティ協議会」との連携をグランドデザインに掲げており、協議会の活動が、地域と学校の連携・協働に重要な役割を果たしている。中学生がコミ協活動にボランティアとして積極的に参加している。
- 協議会の活動が外部機関に認められ受賞につながった。

ようやく活動も安定し認められつつあるものの、まだまだ地域に十分理解・認識・浸透されているとはいえず、地域活動を継続する難しさを経験してきた。今後とも「持続可能なコミュニティ協議会」として続けていくことが協議会の課題と進歩である。

【組織・体制・人材】

- ◆協議会に参加する団体や団体に属する個人の、コミ協の理解や賛同は十分とはいえず、協議会としての組織・体制維持にはまだ不安定なものがあり盤石とはいえない。(継続性)
⇒コミュニティ協議会への加入は、考えに賛同する者が任意で参加。参加は自由である。組織でなく個人の意思にたよるものは大きい。協議会の組織・体制上からは幅広い市民の参加が求められる。(会員の幅広い分野からの参加。加入方法やPRを工夫して増強に努める)
- ◆団体によっては役員の任期が1年交代。協議会の意義や重要性が十分に伝わらず安定した協力支援が得られにくい。また人材難により役員の長期固定化が続き、後継者の育成が課題。地域活動には、地域をまとめる力(総合力)が必要であり、協力者確保の難しさがある。
⇒区長、消防団、PTA・子ども会などの団体の長は、慣習的に1年交代が多いことから直ちに改善は困難。地道に活動を通して人材の発掘・育成が必要。(地域づくりは人づくりが基本)
- ◆協議会の運営については自主的に取り進める力がついてきたが、活動の幅も広がっていることで事務的業務も増えており協議会役員の負担は大きくなっている。
⇒事務職員との連携や役割分担など進めて負担の軽減を図る。(合理主義では進めない難しさ)

【地域の課題】

- ◆防災訓練、講演会、清掃活動などへの住民の参加意欲が低い。自治会離れ、子ども会離れなどでイベントへの動員には苦慮する。また参加者の顔ぶれも特定の人に偏ってしまう。
⇒誰もが参加しやすく、楽しめるよう工夫を取り入れる。地道に活動の必要性、重要性を説明。

【学校との連携】

- ◆教育方針「郷土を愛する子どもの育成」を進めるには、地域(コミ協)と学校の双方で積極的に連携することが不可欠である。コミ協の果たす役割、必要性は増している。
⇒学校長の理解と教職員の積極的な参加。双方がコミットするという認識が重要

協議会活動はどうして続けてこられたか？

コミ協の発足から10年、現在もコミ協は発足当初から変わらず幅広い活動に取り組んでいる。紆余曲折、変節もあったが、新たな活動にも取り組むなどより進化している。設立当初から厳しいといわれてきた活動が、どうしてここまで持ち続けてこられたかを振り返り探る。

●◎運が良かったこと。

発足当初に様々な団体、個人が集まる中で、コミュニティ活動に対する理解や賛同するメンバーが多くいたことが、以降も組織の力のもとになり継続の力となっている。

東日本大震災は、コミュニティ活動の必要性、重要性を大きく高めた。（活動の大義）

●◎適材適所

組織や部会の編成には、メンバーの属性が協調性、継続性の力を握る。共通性のあるメンバーの組み合わせを行うことで、部会が纏まりやすく活動が活性化してきた。

●◎理念があること

組織の目的や活動の在り方、考え方について理念を持つことが重要。理念はみんなで考えみんなで作る。目的意識が明確であれば協調と共感、賛同、肯定感につながる。

●●合理性、効率化では続かない

合理性を求めたり効率化を図ることは大切なことであるが、地域活動にそのことを理解しすぎると続かない。適度の義務感や責任感は当たり前と感じる風土。そのことが良い結果を生んできた。

「やって良かった、やってて良かった」の繰り返しが続いてつながる。

●●学校は地域コミュニティの場である。学校との連携がコミュニティの裾野を広げる。

地域でのつながりが希薄化する中で学校は最大のコミュニティの場である。双方が連携することでコミュニティ活動は新たな広がりへと繋がる。

●●リーダーのもつ資質に幅広い人脈

コミュニティ活動を進めるには多くの協力者が必要である。幅広いつながり（人脈）が問題解決、活動の推進に大きな力を発揮する。全体を俯瞰し纏める力

12. 受賞歴

◇ コミュニティ協議会の永年の活動が認められました

年 月	授賞機関	受 賞 理 由
2015年4月	神栖市立大野原小学校 学校長表彰	感謝状 大野原地域のコミュニティの醸成、協働体制の構築と子供の育成に尽力した
2021年4月	市立大野原小学校 市立大野原西小学校 市立神栖第四中学校 3校長会連名表彰	感謝状 長年交通立哨や見守り活動を行い、児童生徒の交通事故防止に貢献した
2021年10月	茨城県警察 本部長・交通安全協会長 連名表彰	感謝状 長年に亘り、率先して立哨活動、見守り活動を実践し交通事故防止に多大なる貢献した
2022年5月	茨城県教育会	教育功績者表彰 あいさつ運動、通学路安全点検、奉仕活動の実践により、地域と学校が連携し、実践を通して健全な子どもたちの育成に尽力した
2022年10月	茨城県警察 本部長・防犯協会理事長 連名表彰	ボランティア団体表彰 地域安全活動を実践し、模範的な活動を推進し安全で安心なまちづくりに貢献した

ご清聴ありがとうございました

神栖四中学区地域コミュニティ協議会



事務局

〒314-0144 茨城県神栖市大野原7-5-59

大野原コミュニティセンター内

TEL・FAX 0299-93-0008

MEMO